



連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局
Tel 090-4825-7174 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

号外

(創刊 1988.12.14)

2016.03.10.

偉大な人を失った！

連協会長 比留間 哲生

平成 28 年 2 月 6 日朝、連協生みの親の一人であられた永田親義さんは突然逝ってしまいました。

私はお宅も近いので毎日のように愛犬とともに伺い、今後の道路対策の戦略を話し合っていました。平成 20 年に私が道路運動に入ってから 8 年間に大変な薫陶を受けました。振り返りたいと思います。

別途、経歴書にある通りノーベル賞を受賞した京都大学の福井謙一先生の研究室から「国立がん研究所でフリーラジカルの理論をがん研究に生かせ」と送り込まれたのだそうです。そこを定年退職した際、今後の余生は理科系から離れて現役時代からの憧れであった文学や哲学に没頭したいとの希望でしたが、昭和 63 年、突然の横環南計画の発表を聞き高速道路反対運動に人生最後の情熱を傾けようと宣言されたのです（日本科学者会議の雑誌「日本の科学者」に詳述）。

何事も徹底して行う行動態度は抜きん出しておられ、訴訟についても道路運動の先輩格である高尾訴訟に見習いスタートしましたが満足を得られず、弁護士を立てない本人訴訟に切り替え数多くの訴訟を主導しました。法律を科学的に分析し行政の盲点について準備書面を独自に執筆し司法に切り込みました。事業評価監視委員会の不当性を訴えた裁判では東京地裁の裁判長を訴え最高裁まで上告し、いわゆるボーリング訴訟では横浜地裁の裁判長を裁判官訴追委員会に訴え徹底して追及しました。私との 8 年間に 142 件もの対外文書を国交大臣、NEXCO 東日本社長、横浜市長をはじめに最高裁裁判長とありとあらゆる道路関係先に送り付けその枚数は 932 ページにもなり

ました。正義感の塊として私欲を捨て自然を尊敬しつつ住民の将来を思いながらの膨大な作業でした。残された連協の全員で微力ながらそれらを嘯みしめ後に引き継ぎたいと思います。

決して自慢をなさる方ではありませんでしたが、道路関連では我々の反対運動の端緒である例の「ウソ問題」訴訟で訴追した地裁の裁判長を行方知れずにしたこと、学者としてはノーベル賞に関わられたこと、また著作の「がんはなぜ生ずるか」（ブルーバックス）が文芸春秋で立花隆氏から最高のがん入門書であると称賛されたことを紹介しておきます。

ぽっかりと穴が開いたような毎日です。知的欲求が強く道路関連に限らず何か問題が起こればその根本原因は何かと追求し、事あるごとに伺い調査結果を報告する毎日でした。今日も報告に伺おうかなと資料を準備して「あっそうか、もういらっしやらないんだ！」と虚無感にふけるこの頃です。偉大な人を失ったと実感が沸いてきます。前日まで執筆していました。天国でゆっくりお休みください。



在りし日の永田さん

永田さんを悼む

小平 328 号線訴訟原告 標 博重

突然の訃報にびっくりしました。お知らせのなかでつい前日も会議に参加されていたとのことで、本当に住民運動に一身を捧げた方だと感服しました。

私は連協の発足集会から何かと関わりをもたせていただきましたが、その発足当初から法都計部という組織を設定し、住民運動を法的側面から高めまた相手の行政のごまかしや権限の濫用を理論的許さない戦いを指導されたことに、心から感服しました。

私も永田さんの発想や取り組みを数多く学ばせていただきました。全国の仲間たちにも大きな先生でした。

特に、アセス等に関する綿密な説明集会を組織したこと。情報公開、用地買収差額追及、アンケート問題、土地収用事業認定その他の訴訟、行政不服審査請求、公害調停等の行政運営に対する取り組み等国民に許された限りの権利、一般には思いつかない観点からの法的取り組みには感服し、学ばされました。これが連協 30 年近くの運動を牽引したのだと思います。

特に私たちが活用しなければならないのは事業評価監視委員会の画期的な取り組みです。私どもが気のつかない取り組みでした。この取り組みの中で特筆すべきは、委員会から「住民との合意形成が不可欠」との付帯意見を勝ち取ったことです。行政機関に言わせたことです。これは全国連においても永田さんの置き土産を大いに活用しましょう。

永田さん、私も 90 才を超えましたが少しでもあなたに近づけるように運動します。

ご冥福をお祈りします。

長老の死を悼む

高尾山の自然をまもる市民の会
橋本 良仁

いっどこでお会いしても元気いっぱいの永田さんでした。しかし、この 2、3 年は体調がすぐれないご様子で、お身体の具合を心配していた矢先の悲報でした。永田さ

んは予防医学研究所のすぐれた研究者（学者）でした。終に棲家に突如降りかかった高速道路建設問題でした。道路建設に反対する住民運動の中にあつては、それまでに得た知識を武器に人並み外れた正義感と旺盛な闘争心をもって死ぬまで闘い貫きました。私の永田さんに対する第一印象は気迫の人であり炎の人でした。そうした意味で、すでに他界された高尾山の自然を守る運動のリーダーであった山田和也さんの人柄と重なります。

横浜環状南線（圏央道）は、閑静な住宅地のど真ん中を通過する迷惑だらけの高速道路で環境破壊以外の何物でもありません。建設の必要性はまったくありません。そして許せないのは、数年後に住宅地に大型道路が通る計画があることを業者と行政がひたすら隠していたということです。長い間、弁護士なしの裁判を続けることができたのは永田さんのひたむきな努力があったからに他なりません。まさに永田さんの面目躍如たるものでした。

長老の死を悼むとともに、その遺志を受け継いでいかれることを願うものです。

ご冥福を！

外環ネット 大塚 康高

パレードの折にお顔を拝見し、お話を伺ったことを思い出しております。行政への戦いをよくご存じの方でしたね。大事な方がなくなり、皆様お力を落とされているとは思いますが、さらに熱い戦いを展開されることを祈ります。永田さまのご冥福を。心からお祈りいたします。

永田親義様ご逝去の報に接し、心からお悔み申し上げます。

外環反対連絡会 高柳 俊暢

永田さんは常に主権者としての権利を自覚し、これを行使し、行政の横暴に立ち向かうべきことを自らの行動で教えて下さいました。

個人的には同じ物理化学分野の出身者と

して親しませて頂きました。全国道路集會や連協の集會などでお顔を合わせたときの優しい笑顔も忘れられません。

ご冥福をお祈り致します。

「永田さん追悼文」

朝日平和台 松本 昌司

永田さんの突然の訃報に接し吃驚、正に九州男児らしい大往生であられた由。

永田さんには、横環南線反対運動の立ち上げ以来28年、ご指導を頂いた。

氏の遺された数々の教えの中で、小生が特に心に刻んでいるお言葉を一つご紹介し以て永田さんの遺志、横環南線撤回実現に向けての糧にしたいと考えます。道路計画に対する国交省官僚の対応について「昔の陸軍官僚と同じで、いずれ日本は亡国の道を進む。これでは学徒出陣で散っていった学友たちに合わせる顔がない」と。

共に歩んだ歳月は私の誇りです

G T本郷台 柴田 哲夫

恐れていた事態がついに現実となってしまいました。私は今「巨星墜つ」の寂寥感の中で、連協の長い裁判闘争のひとつの区切りを感じています。

1987年、横浜屈指の閑静な住宅地のど真ん中を分断して地上4車線、その地下を6車線の巨大トンネルが貫通する「高速横浜環状道路（圏央道）建設計画」が公になり、翌年建設反対住民等の連絡協議会が発足しています。永田氏は発起人の一人として連協結成に尽力、反対運動の訴訟分野のたたかいを陣頭指揮、結果的には供用開始を1997年から2021年供用（予定）へ、延期を余儀なくさせています。

先の大戦の学徒動員で学友の多くが戦病死し、贖いの民主主義・主権在民こそが氏の思想背骨になりました。国土交通省、横浜市、事業者等の住民不在行政には厳しく論理を尽くし、筋を通す剛直真摯、率先垂範の氏の生涯は、連協の誇る歴史そのものであり、連協活動の象徴でもありました。92歳を越えた頃からは足腰の衰えが目立ち、

近年は肺炎を危惧し外出を控えるなど健康不安はありましたが、京大大学院助手として福井教授のノーベル賞に連なる研究を支え、国立がんセンター研究所では生物物理学部長として癌研究の中核を担い、退職後も癌治療啓蒙図書を執筆し続けてきた明晰な頭脳には、いささかの衰えも無く、死の前日も、今後の連協活動の戦略について連協会長へ宿題を具申したと伺いました。

卒寿を越えても、過去の事象の正確な記憶力は健在で、その底知れぬ頭脳力は、皆の畏敬の的でありました。

氏は学者ながら書齋人より実践行動の人であり、若年期の剣道修行の賜物か、その胆力・気概は、まさに生国の薩摩隼人、古武士を偲ばせるものでありました。氏と共に行動し厚誼に浴した幸運な歳月を感謝しつつ衷心から哀悼を捧げます。

15年の思い出

庄戸三丁目 田中 克己

私が連協の道路運動に参加したのは、約15年前、永田さんに遅れること12年であった。その後、永田さんのお蔭でいろいろ貴重な経験をさせて頂いた。多くの裁判や調停があり横浜地方裁判所はすっかりお馴染みになった。3次元流体モデルによる大気拡散シミュレーションを行い事業者の予測がずさんで間違っている事を証明した。我々の主張を佐藤謙一郎議員を通して小泉首相にぶつけた事もある。横浜市役所を人の輪で包囲したこともあった。

永田さんは創設時から法都計部をリードし、横環南線の法律問題にかかわる多くの法廷闘争を指揮した。裁判は、連戦連敗で、連協の中でも法都計部はホットケイといって揶揄する向きもあった。永田さんは京都大学の工学部卒だった。工学なのになぜ法律なのだろうか？エンジニアのはしくれである私は、法律もサイエンスも論理的にトコトン追及（推論）するという意味で似通っていると思う。その推論は多くの場合失敗に終わる。その失敗にめげず別の推論を追及する。永田さんは、とにかく敗訴にめげなかった。判決のなかのほんのちょっと

した語句に光明を見つけ出し、次の裁判（または追及）を提起した。法律のちょっとした表現を見つけては事業者の瑕疵や不都合を徹底的に追及した。私はこれが学究肌というものかと、半ばあきれながら感じ入った。膨大な失敗や挫折にめげずにノーベル賞を受賞した山中伸弥さんや大村智さんの話とも重なる。

永田さんは「可能性なし」と見れば、いつまでも一つの追及（推論）に拘らなかった。一定の成果を挙げたとみれば控訴や上訴はしなかった。1つの成算のない問題に拘るよりも次の追及の種を探しその為のデータ収集を熱心に行った。

私が連協に参加してしばらくして、圏央道のあきる野、八王子において土地収用法の事業認定取り消し訴訟があいついで行われ、永田さんも熱心に通っていた。永田さんの追及に現地活動家や弁護士もへきえきとした事もある。永田さんは帰って来て、「土地収用法の認定がされたら何をやってもダメですよ。だから今頑張らなければならないんですよ！」と強調していた。



高尾山での永田さん 前列左

昨年10月当地においても事業認定が行われたが、永田さんは、認定取り消し訴訟を提訴しないことを早くから決めていた。厳しく粘り強く冷徹な永田さんらしい判断だったと思う。感謝の気持ちを込めてご冥福をお祈りいたします。

追) 永田さんが提議した大気汚染予測に関する3次元シミュレーション適用を求める公害調停は5年越しで、事業者側を土俵際まで追い込み未だに続いている。私はこの遺産を永田さんと共に徹底的に追及して行こうと思っている。

永田さんを偲んで

庄戸三丁目 田中 恵子

永田さん、長い間お疲れ様でした。そして有難うございます。どうぞ安らかにお眠り下さい。

永田さんには本当に多くの事を教えていただきました。私が何も知らなかった圏央道の事、横浜環状道路の事、過去の住民運動の事、そして、健康長寿の秘訣などを丁寧に何度もお話して頂きました。

1月末に永田さんから久しぶりにお電話を頂きました。私の書いた拙い原稿の感想を、直接電話でお話して下さいました。いつもは厳しい永田さんには珍しく優しい言葉で褒めて頂きました。大変恐縮致しましたが、大きな力に励まされた私でした。最近お目にかかっていますでしたが、とてもお元気そうな明るい声をお聞きして、うれしくなりました。それから僅か10日でお亡くなりになるなんて本当に信じられませんでした。まだまだ教えて頂きたいことが沢山ありますのに残念でなりません。

永田さんは、強い正義感と、絶対に妥協を許さない強い信念、諦めずに継続する姿勢そしてエネルギッシュな行動力、90歳を超えても新しい情報を習得するまさにスーパーマンでした。又、正確な記憶力はコンピュータ以上で、いつもただただ驚くばかりでした。何よりも、変わる事なく燃え続けたその熱い心を私は忘れません。

道路反対運動の生き字引を失った私達の痛手は大きく誰も埋める事はできないでしょう。道路反対運動が山場を迎えた今、私たちは、永田さんがいつもおっしゃっていた「住民の当然の権利」を守るために、今まで以上に力を合わせて、堂々と主張をして行かなくてはと思います。弱気になったときは天国から永田さんの喝が飛んでくるような気がします。永田さんが私達に残して下さった沢山の貴重な資料をこれからも大切に役立てて参ります。心から感謝申し上げます。

永田さん、コンピュータを袖にする

庄戸三丁目 野宮 賢

皆さんよくご存知のように、永田さんは、道路問題に関して、行政当局や裁判所に向けて多数の文書を作成するという多大な貢献をされました。その一方、ご自分の専門等に関する本を5冊著されてもいます。この仕事振りを見て、永田さんに、「調べごとや物書きに便利なので、私の組み当てたパソコンに余分があり、それを差し上げましょうか？」と申し出たところ、「僕は、そういうのを嫌いなんだ。」と言下に拒絶されました。続けて、「調べものは、国会図書館でし、書きものは、手で書く、というのが、僕の主義だよ」と言われました。これをお聞きし、「永田さんは、筋金入りの古き良き時代の研究者なんだなあ」と、痛く感動したのを昨日のここのように覚えています。

惜 別

庄戸三丁目 鈴木 文江

2月6日早朝救急車のサイレンが鳴り渡りました。このところ寒いから朝は具合悪くなる人多いんだなと思っているうちにだんだん近づいてきたのです。ドアを開けて伺っていたらお隣に止まってしまいました。あら大変と書いていましたらしばらくして救急車はそのまま帰ってしまったのです。これは3丁目の一大事と思いあちこちに連絡しました。以前肺炎になられて入院なさっていたし高齢でいらっしゃるので心配はしていましたが突然のお別れに戸惑うばかりでした。前の日までいつもと同じに過ごしていらっしゃったと奥様はいつておられました。お亡くなりになるまで鋭い指摘と分析力で執筆活動なさって桜の散るようにお亡くなりになったのですね。我々は落胆している時間はありません。永田さんの意思を受け継ぎきちんと道路運動を続け、庄戸を肺がん多発地帯にならないようがんばらなければいけないのです。ご冥福をお祈りいたしますがまだまだあの世から我々に活を入れてくださるようお願いいたします。

永田様と張り込みと蕎麦

立ヶ谷 千晴

20数年前の蒸暑い初夏の日、連協の永田さんを含む数名の男性達と、横浜市議会議員と道路局の役人が料亭で食事するとの情報があり、その現場の写真撮りと万一接触できれば、“税金の無駄使いをするな”無駄な道路は造るな”と一石を投げようと鶴屋町の料亭前の草むらに2時間！結果、張り込みがバレたらしく、その日は道路局の役人は一人も現れず空振りでした。女性は私一人、手足は蚊にくわれ散々な姿でした。永田さんは”女性は大変なのにご苦労様でした。”と声をかけて下さり労って下さいました。その後も事あるごとに、当時の話をしては”大変だったね”と声をかけて下さいました。



永田氏説明を聞く住民 於 横浜地裁

ある日、市役所への抗議活動の時、昼食を地下の食堂で食べる事になり、永田さんは大盛のざる蕎麦をペロリ！びっくりしました。大の蕎麦好きがこの時わかりました。次の日比谷公会堂での集会の後、お蕎麦のある居酒屋にお連れした時は、私達は勿論ジョッキですが、永田さんは大盛のざる蕎麦、手にするものは違っていても、目的は同じ仲間同士の話は夜遅くまで続きました。その時、永田さんより一言”おいしいお蕎麦でした！”安心したことを昨日のように覚えています。

いつも帽子と背広姿で行政の理不尽と戦っているその姿は、今も目に浮かんできます。いつしか永田さんがお元気で道路反対運動をやっているうちは”やめられない”が皆の合言葉になりました。

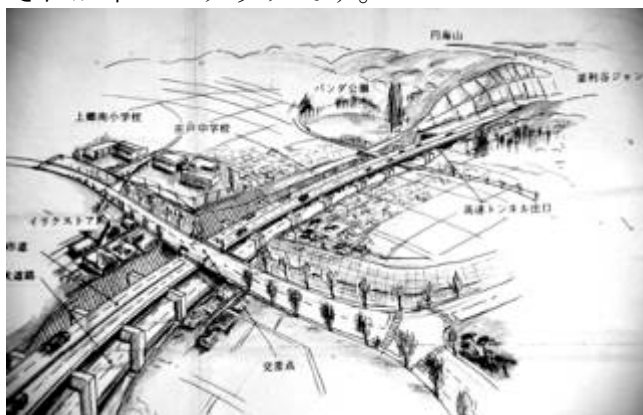
私は家庭の事情で2年前に引越しをして

運動から遠ざかりましたが、永田さんと連携は心のどこかにいつもあります。天国でも理不尽な行政のやり方を話していらっしやると思います。ご冥福をお祈り致します。

永田親義様を悼む

庄戸三丁目 豊田 興太郎

私と永田さんの接点は反対運動が立ち上がってからの1990年頃、永田さんより「計画されている高速道路の想像図を描いてくれないか」というご依頼でした。「この高速道路建設により庄戸の住環境は物理的に分断、破壊され、深刻な健康被害をもたらすことになる、言葉だけでは実感が伴わないので絵にして欲しい」とのことだったと思います。視覚的な表現の有効性をご理解されておられる方として印象に残りました。最近まで想像図を描いたことは覚えていましたが、どのようなものだったのか定かではなく、見られるものなら見てみたいと思っていましたところ、1年ほど前に永田さんが保管されていることがわかりました。それが下のスケッチです。



当時の高速道路計画によるイメージ (1990)

静かで緑豊かな庄戸の町は巨大な掘割で分断され、美しい山は削り取られ、車が粉塵と騒音、振動を撒き散らしています。現在の道路設計では醜さをトンネルによりカムフラージュしていますが、問題の本質は何ら解決されていません。

永田さんは「環境を破壊する高速道路は作らせない」という強固な信念のもと、道路建設の不当性を科学的な調査、法的な手

続きに則り追求し運動を導かれました。工事着工が現実化する今、聡明で力強い支柱を失くしたことは極めて無念ではありますが、27年間のご功労に心より感謝を申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

安らかにお休み下さい

庄戸三丁目 宮原 正雄

永田親義氏が急逝された。最近はお目にかかることも少なくなり、案じてはいたが、相変わらず精力的な活動を続けておられたので、その日が現実になるとは思っても見なかった。私の家族は庄戸に昭和59年に家を建て移り住んで来た。交通の利便よりは住み心地の良さを優先したのであるが、道路予定地にはいずれ道路が出来て、大船まで15分で行けるという触れ込みに夢も抱いていた。その後、仕事の都合でこの地を離れることになった。その間に一般道路がいつの間にか大トンネルの高速道路に変わり、住民による反対運動が起きていることは遠く仄聞していた。平成5年に庄戸に戻って来ても、しばらくは道路反対運動も沈静化していたのであろうか。永田さんとお近づきを得たのは平成20年、NEXCOによるボーリング強行調査が契機であった。



庄戸ボーリング阻止活動中

庄戸の道路反対運動の理論的、精神的支柱として指導的存在であったのが永田さんで、その情熱と信念には囚らずも魅せられることになり、以来、反対運動に熱心な先輩方の背中を拝しながらも道路反対のシンパとして今日まで歩んできた。永田さんは、戦中派を自称し、反権力、反体制の立場を取り続けて来られた方である。自筆の原稿には、ご自分の名の後に、カッコ書きで戦中派とある。生涯反権力を貫かれた永田さ

んに戦中派の矜持を見る。安らかにお休み下さい。

永田先生を偲んで

ネオポリス 塩田 信子

私たち「連協」の運動は、最初から「抜本的見直し、白紙撤回を」と訴えてきたのは、条件闘争では地域住民分断を避けるためと、この地域の自然環境に恵まれた住宅地の真中に六車線の高速道路を造らなければならないのか？という疑問から反対してきました。

私たちの運動のやり方の基本は、貧富の差、職業の種類、男女の差別、年齢・学歴の差異などに関わらず、分け隔てなく公平に会話し議論してきたことです。その考えも永田先生の基本姿勢から自然に行われたのでした。

裁判のための弁護士費用も連協が拠出できなくなってから、国土交通省、横浜市長、裁判所に提出する告訴状等々、全てにわたって永田先生にお任せしてしまい、心身ともにご負担をかけてしまったのではないかと後悔と反省の念にとらわれて、本当に申し訳なく思っております。

私にとっては、この道路問題を通じて、永田先生にお会いできたということは私の喜びであり、感謝の言葉もございません。

今後、永田先生の初心を忘れずに、強い遺志をしっかり刻み、引き続き運動を続けてまいりたいと存じます。長い間ありがとうございました。ゆっくりお休みくださいませ。

揺るぎない信念と行動力

庄戸三丁目 吉田 久美子

初めて永田さんとお会いしたのは、私が町会の道路委員になった27年前でした。役員会でいつも真摯に向き合い意見される姿に圧倒されると同時に、尊敬の念を覚えました。その後、専門分野でも素晴らしい業績を残された優秀な方であると分かり驚きましたし、ちょっと近寄りがたいような気持にもなりましたが、いつも大きな視野

で物事を見つめ情熱を持って「子供世代、そして未来に負の遺産を残さないために」と主張行動し続けられたお姿を見て、ますます尊敬の念が強くなりました。

そして健康上のこと、町会のことを含めて私達の様々な相談にも、必ずしっかりと向き合って意見を言って下さったことにも感謝致しております。この度の訃報を受けてもすぐには信じられませんでした。ご高齢ではあってもまだまだ私達地域の中で頼りがいのある存在でいて下さると思っていたからです。そのほんの数日前に、私同様、永田さんを尊敬される地域の方とそんな話をしたばかりでした。

告別式に参列させて頂いた折、お嬢様の会葬者への挨拶の中でご家族を大切にしていって温かく素晴らしい家庭を築いてこられた永田さんのお姿も目に浮かぶようでした。永田さん、本当に色々ありがとうございました。合掌

思い出

庄戸三丁目 江島 保則

27年にもわたり横環南高速道路建設反対運動の先頭に立って我々を導いてくださった永田さん。

ときには集会でときには町内の年次総会で「なぜ反対運動をするのか」を論理的に解説されて、それに異を唱える意見が出ると「それは違う、どうして解らないのか！」と一層大きな声で諭される。そんな永田さんの姿が思い出される。



ボーリング阻止現場での永田氏

何と言っても庄戸の道路建設予定地でのNEXCOとの長期の対決。ご高齢なのに連日

我々住民と共に体を張って、若く屈強のNEXCO職員に立ち向かう。時に空き時間があるときはパンダ公園で解りやすく講演会を開いてくれる。まさに理論的にも行動の上でも庄戸のみならず道路建設予定地沿線の方々にとっても鏡でありリーダーであったと思う。

既に高速道路の建設が始まり建設反対運動も大きな転換期を迎えている。この時期に巨匠永田さんの逝去は誠に残念であり、また悲しい。

お疲れ様でした、ゆっくりお休みくださいと永田さんのご冥福を心からお祈りするばかりである。合掌

永田先生の思い出

湘南桂台の生活環境を守る会
金子 サキ

永田先生の思い出は、連協の起こした道路に関する裁判の判決結果を裁判所の控室で解説して下さる姿が心に残っています。素人の私にも解る言葉で、裁判長と原告・被告のやりとりを説明して下さいました。そしてたとえ敗訴になったとしても「意味のある裁判」であると常に前向きな解釈をすることが出来、明るい気持ちで家路に就くことが出来ました。いつもにこやかに、その話される声はやさしく永田先生のお人柄や生き方が現れていました。

しかし、道路問題を事業者に質問し意見を述べる時には語気も強く正義感あふれる場面もあり頼もしく感じました。



質問・回答会議

道路問題を人生後半のライフワークとして活動された永田先生には「義を見てせざるは勇無きなり」の諺が私の心に浮かんできました。本当に勇気ある生き方を全うさ

れ、後に続く私たちに「人としての生き方」を示して頂いた大切な先人として心に深く刻みました。ご冥福をお祈りいたします。

永田 親義先生

湘南桂台の生活環境を守る会
松田 京子

生前 永田先生は『先生』と呼ばれることを好まれず。庄戸の永田で良いと常々おっしゃったそうです。

以前、永田先生は『退官後は自分の研究をし、本を読むつもりだったが道路問題でそれが出来なくなった。この道路問題はあつてはならないことなのだ』と強くおっしゃりました。私は公の研究者でいらしたのだと感じ、永田先生とお呼びしました。

先生とは高尾の天狗の集会、連協パレード等よくご一緒させて頂きました。ご高齢にも関わらず、行政、大手ディベロッパーに対する抗議は、住民の皆が力を得るご意見で、私は惹きつけられておりました。2016年1月、ある方が「永田親義著『がんはなぜ生じるか』等の2冊の本を貸して下さいました。それを読み、永田先生は若い工学博士として、ノーベル賞受賞の福井謙一博士のもとで、量子化学の理論研究をされ、後にこれを実験の場（国立がんセンター）へと移され、生理物理部長としてがん発生のメカニズムに関する大きな実績を残されたことが分りました。

先生は科学者として、道路建設の意味を問う運動を、皆様の先頭に立ち活躍下さったのだと、お礼を込めご冥福を心より祈念いたします。

永田親義さま追悼文

法都計部 青木 達喜

2016年2月5日午前11時頃電話を掛け「法都計部の来年度予算（案）は今年度と同一にしました」と報告しました。普段より元気な声で応対して頂きました。翌日突然の訃報の知らせは、信じられません。

永田さんとの最初の出会いは、28年前、湘南桂台グランボア（現セブンイレブン）

の前でした。それから長い間、未熟で我儘な私を支えてくださいました。人間として正直に心正しく、偽りのない人生を送るよう接してくれました。

告別式の弔事で、「父は正義感が強く厳しい面もありましたが優しい父でした」とのお嬢さんの言葉、私は一人深く頷きました。

永田親義さん、約30年間本当に有難うございました。

永田 親義 様

庄戸三丁目 岩倉 正剛

永田様とは突然お別れすることになり、残念でなりません。永田様のお年を考えれば、こういう日が来るのは当然覚悟しなければならかったのですが、永田様があまりにも精力的に活動を続けておられましたので、つい永田様のお年についての配慮が私達の頭から抜け落ちていたものと思います。

それにしても、永田様が頭脳明晰で情熱的で、私達の遠く及ばない存在であったため、つい私達は永田様に頼り切り、まさに「おんぶにだっこ」の状態でごここまでできてしまいました。

しかし、永田様がおられなくなったために、庄戸三丁目も連協も、高速横浜環状南線建設反対運動が後退したとなると、永田様も天国でゆっくり出来なくなるでしょう。

私達は微力ながら、多くの人々の力を結集し、全力で事に望む決心です。天国から眺めていてください。

幸いにして、現在有能かつ熱心な有志が10数名集まっています。私と鈴木文江さんは平成28年度の道路対策委員に予定されていますので委員として活動し、その他の方々は道路対策委員会のアドバイザーとして活動してもらい、できれば更に私達の輪を広げて、永田様が目指された目標に向け邁進したいと考えています。

永田様もお疲れのことと思いますので、時々地上の出来事に目をやりつつ、天国の生活を楽しんでください。私は日本人男性の平均寿命に達しましたので、もう長くは運動を続けられないでしょう。私が運動の成果を携えて、永田様に面会できる日が

来るのを楽しみにしています。

永田 親義様の死を悼む

庄戸三丁目 本田 瑛美

永田様とお付き合いをさせて頂くようになりしたのは平成14年、私が初めて道路委員になったときからです。その年に道路委員の中で最も道路のことを知らない道路委員長が誕生しましたが、その無知な私に道路反対運動の意義等を丁寧に教えて下さいました。それからはずっと微力ながら反対運動のお手伝いをさせて頂いておりました。

記憶に残るものは沢山ありますが、その中の一つがホームページの作成です。道路委員になったばかりのときに永田様からホームページが欲しいと言われて拙いホームページを作成いたしました。その後連協事務局に引き継がれて格調高いものに生まれ変わり現在に至っております。

次に地盤沈下に関する質問集会がありました。この質問集会では外部からの地質の専門家吉田尚さん、坂巻幸雄さん、朝日平和台の小沼さんと共に参加させて頂きました。地盤沈下だけではなく大気汚染、騒音、震動等についても質問集会が行われ、その成果は4冊の冊子にまとめられております。これの企画・指導をされたのも永田様です。



庄戸事業用地で座り込む永田氏

平成20年の庄戸地区のボーリング阻止行動に際しては先頭に立って事業者の前に立ちはだかり、事業者が業務妨害と訴えるのに対して住民が少し腰が引けたときの的確な法律判断で安心して抗議活動ができる

ようにしてくださいました。

何にもまして記憶に残るのが裁判です。表面的な成果は乏しかったかもしれませんが、その一つ一つが事業者に多大な衝撃を与えたことは間違いないでしょう。たゆまずに繰り返されました。永田さんは決して負けたとは思っておられなかったのでしょうか。行政擁護の不条理な産物とでも思っておられたのではないかと思います。まさに不撓不屈という言葉がぴったりの精神力の持ち主であったと思います。今後も理不尽な道路行政を少しでも糺すために、勝手な願いかもしれませんが、草葉の陰から私たちの行動の支えになって下さることを切にお願いいたします。

ご冥福をお祈りいたします。



忙中閑あり 建長寺で薩摩琵琶を楽しむ

編集後記

永田氏の逝去に伴い、氏の連協に対する多大の貢献、指導性を顧みて急遽、追悼号を発行しようということになりました。

短時間での原稿依頼、編集のため不十分の点もありますが、いかに多くの方が氏の逝去を悼み、又その人柄に敬意を払っていたか解ります。

永田親義氏の経歴

- T. 11. 09 鹿児島生まれ
- S. 16. 03 旧制富山高校卒業
- S. 26. 03 京都大学工学部工業化学科卒業
(量子生物学)。福井謙一研究室で
大学院助手として量子化学専攻
研究室での2号工学博士
(1号は米沢京都大学名誉教授)
- S. 37. 04 国立がんセンター研究所
フリーラジカル発がん説を提唱
- S. 55. 10 東京より横浜市庄戸に移住
- S. 60. 03 国立がんセンター定年退職
(生物物理学部長)
- S. 60. 04 (財)基礎化学研究所評議員
(現京都大学福井謙一記念セン
ター)
- S. 63. 04 三丁目町会副会長
(初めての町会活動)
- S. 60. 05 横環南計画発表(道路運動へ)
- S. 63. 09 連協創設
- H. 28. 02 逝去

主な著書

- ・量子生物学入門(学会出版センター)
- ・がん発生の機構(サイエンス社)
- ・ひとのがんはなぜ生ずるか
(講談社ブルーバックス)
- ・新しい量子生物学(〃)
- ・活性酸素の話(〃)
- ・独創を阻むもの(地人書館)
- ・ノーベル賞の周辺(科学同人)
米沢貞次郎 共著

主な投稿

- ・日本科学者会議の雑誌「日本の科学者」
道路問題にみる住民運動
- ・朝日新聞「声」
リーダーシップとは何だろう
- ・菅直人首相へ檄文